

できる



する

つながる 体育

支える



かわる

わかる

見る

平成27年10月26日体育専科 永井悠介



水泳授業が終了



いい年をして、いまだに鉄棒の前に立つと手から汗が出てきます。

休み時間のグラウンドでのボール遊び、体育授業でのサッカーでは、ラグビー日本代表の五郎丸選手の“あのポーズ”をしている人がいます。代表選手の活躍、そしてお尻を突き出して忍者のように手を合わせるあのポーズに声援をおくった人や感動した人も多かったことでしょう。キックをする前のポーズは、無心になるために行うそうです。

先週、今年度の水泳授業の全てが終了しました。1年生では、「初めてもぐれるようになったよ！」3年生では、「私、泳げるようになりましたよ！」6年生で行った記録計測では、「先生、初めて25メートルを泳ぎ切ることができました。」と、うれしい報告がたくさんありました。うれしい報告を聞いた時に、おぼれそうになってもあきらめないで泳いでいた様子を思い出し、目頭が熱くなりました。

1年生から6年生までの泳ぎを見ていると、魚のように滑らかに泳ぐ人もいました。あまりの美しさに「きれいだな。」と、見とれてしまうほどでした。水中を自由自在に移動する気持ちよさを感じることができましたね。

また、水泳は苦手だなと感じている人がいることもわかっていました。そういった人たちは、上手な人以上に、毎回の授業で自分自身と向き合っていたのではないかなと想像します。

「(泳ぎ始める前には)今回は、大丈夫かな。苦しくならないかな。」

「(水が鼻に入った時には)痛い。泳ぐのをやめて、立ち上がろうかな。」

「(水を飲んだ時には)息継ぎの仕方は、こうだったはずだよな。」

動きのポイントを身に付けようと、頭で考えると動きがぎこちなくて沈んでしまい、浮こうとして力を抜こうとすれば力が入ってしまいます。あれこれ考えずに体を動かすことがいかに難しいかを感じたのではないのでしょうか。そうやって、考えながら少しずつ動きを身に付けていこうとする姿勢は、とても素晴らしいもので、見ていて心から応援したくなるものでした。

五郎丸選手のキックと、みなさんの水泳授業での頑張りは、練習を通じて無心でできるようにしようと努力するという点では、とても似ていますね。

休み時間や放課後の鉄棒遊びを見ていると、「永井先生のだるま回りを見せて教えてください。」と、言われることがあります。鉄棒が苦手な私は、昨年だるま回りをこっそり練習してできるようにしました。「わかったよ。今見せてあげるから……。」と、口では言ったものの、「胸を張って、上がる瞬間に小さくなって……。」と、無心には程遠いです。

つながる体育

する 見る 支える

本当のサッカーがしたいです！！

3年生と5年生ではサッカーの学習をしています。授業の準備をしていると、「先生、今日は本当のサッカーがしたいです。」と、言われることがあります。話を聞くと、「ゴールポスト2つあって、思いっきりシュートをかけて、大人数で……。」と、Jリーグやテレビで見るようなサッカーをやりたいということのようです。運動に興味をもっていることにうれしくなると同時に、こういう疑問をもってほしいなと考えて授業をしていましたので、何となくうれしい気持ちになりました。

確かに、授業で行うサッカーといえば、ゴールポストはなく、縄で区切られたゴールエリアでキャッチすることで得点となります。思いっきりシュートをするかわりにゴールエリアにいる仲間に正確にパスをする必要があります。人数も4人程度と、スタジアムやテレビで見るサッカーとは大きな違いがあります。これでは、「本当のサッカーじゃない。」と感じるのも無理はありません。

しかし、みなさんが見ているサッカーは、本当のサッカーなのでしょうか。実は、サッカーもたくさんルール変更がなされて今の形式になっています。例えば、私が小学生の頃は、同じチームのプレイヤーがゴールキーパーへパスをする時に、ゴールキーパーは手を使ってキャッチしてもよいというルールでした。しかし、1992年から味方からのバックパスでは、手を使うことが禁止されました。

他にも、6年生が学習しているバスケットボールは、最初は9人対9人でした。今では5人対5人となっています。バレーボールも9人対9人から6人対6人の今の形式に変わってきています。スポーツのルールは、時代に合った面白さを追究する中で進化していくものです。これが、本当のスポーツなのです。

前にも紹介した、学習する内容の基準には（高学年のボール運動「ゴール型」）、
「パスやドリブルでボールを運び、シュートしやすい場所を見つけてシュートすること」
「ボールをもっている人と、自分の間に敵がいない状態をつくれること」
「ボールをもっている人とゴールの間に体を入れて得点を防ぐこと」
の3つについて、サッカーを通して学習することになっています。つまり、サッカーを勉強するのではなく、サッカーをしながら他のバスケットボール、ハンドボール、などゴールが2つある種目に共通する技能を学びます。

授業に参加する全員がサッカーの楽しさを味わいながら学習できるようにとルールを工夫していくという点では、これがみなさんにとって本当のサッカーであると言えます。



(左の2枚) 5年生のサッカー
ゴールエリア目指して、男子も女子もみんながプレーできます。



6年生のバスケットボール
得点方法の変更で、チーム全員が得点することもあります。